事業名 飯村隆彦 写真資料のアーカイヴ作業とフィルム・メディアアート作品のデジタル化・修復事業

団体名 特定非営利活動法人ビデオアートセンター東京

概要

実験映画、ビデオアート、メディア芸術分野の草分け的存在である飯村隆彦（1937 年-2022 年）が残した芸術活動に関する写真資料や紙媒体のデジタル化及びアーカイヴ作業を行います。当該事業はこれまで、飯村のビデオテープ作品（各種テープ媒体収録）のデジタル化とフィルム作品の所在と状態確認の作業を行ってきました。今年度は、次に緊急性が求められる 16mm フィルム作品のデジタル化を開始するとともに、作者が制作段階や作品発表時に作成したスケッチ・図面、記録写真・広報媒体・書簡などの紙媒体をアーカイヴ化し、国内のメディア芸術黎明期といえる 1960 年代～1980 年代の貴重な資料を後世に伝える一助を担いたいと考えます。

体制／手法

飯村隆彦のスタジオに保管されていた活動年ごとのファイルから写真、チラシ、ポスター、直筆のスコア、スケッチ、作品発表時の契約や書簡を一枚ずつ光学スキャナーで読み取り、リストを作成した上で、 将来的な再現展の指示書や作品分析に役立つ一時文献としてリスト化しました。16 ㎜フィルム作品は光学スキャンを行い、4K 相当の画質のデジタル動画にダビングしました。経年によるダメージについては修復を施しました。それらの一部をオンラインと冊子などを通じてアーカイヴの一般的に閲覧可能な状態としました。

資料（上）とスキャニング作業の様子（下）

成果 1（公開・成果物について）

今回の作業で約 1 万点の写真・紙媒体をデジタル化し、それらから 1960 年代～80 年代の飯村の活動や展覧会の様子がわかる資料的価値の高い資料が発見されました。これらの資料のリストをオンラインにて一般公開し、今後の展覧会や研究に役立てたいと考えます。 またフィルム作品からは飯村隆彦のパートナーでもあった飯村昭子の 1970 年代のフィルム作品と二人の共作のフッテージが発見されました。女性の映画作家が国内外でけっして多いと言えなかった時代に制作された貴重な作品と考えます。

飯村隆彦・昭子《Taka and Ako》1966 年

飯村昭子《Mon Petit Album》1974 年

飯村昭子《Late Lunch》1979 年

The Montreal Star, July 5, 1968

Staff Photo by Peter Brosseau

JAPANESE VISITOR: Avant-garde film maker Takahiko Iimura is in Montreal to introduce some of his works at the Underground Film Centre.

'Self-expression' leads director underground

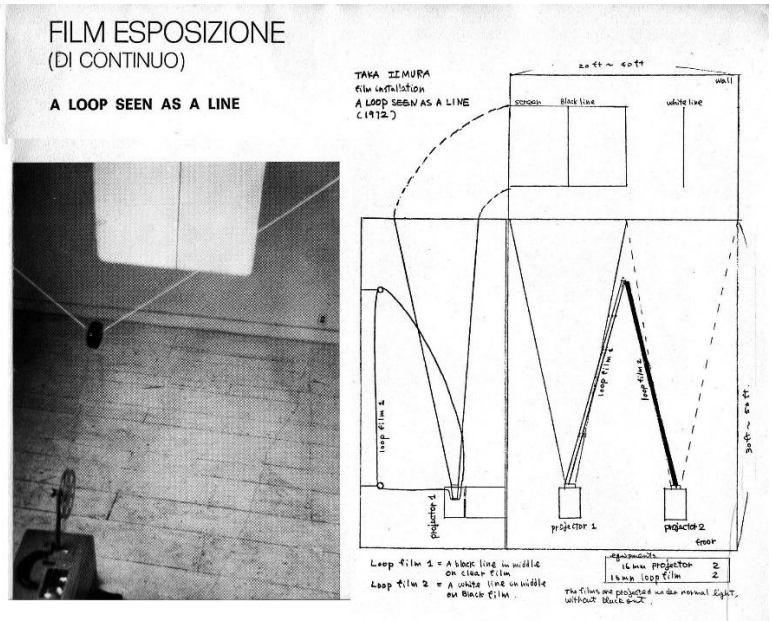
By WOUTER DE WET

Takahiko Iimura, one of Japan's leading avant-garde film makers, said yesterday that there was a definite increase in the number and quality of underground films being produced.

Interviewed at the Galerie du Siecle, Mr. Iimura said that one of the reasons was the fact that an underground moviemaker to survive finan-

Mr. Iimura is in Montrreal to personally introduce some of his films at the theatre this Sunday. In Japan he has produced commercial as well as underground movies but for the last two years he has lived in New York where he has concentrated on the latter.

Mr. Iimura said that it was difficult for the underground



発見された資料の例：1968 年の新聞記事（左）作品の設置図（右）

→

作者によるテレシネ映像
ベータカムテープ（640×480 pixel）

デジタル化版の映像
4K(4000×3000 pixel)

フィルム作品のテープ収録版と新規デジタル化版の比較

成果 2:社会・産業に向けての意義、見込まれる社会的利用等

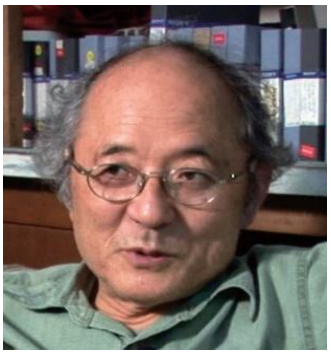
本事業を通じて飯村のメディア芸術作品を公開することができた例に Community of Images: Japanese Moving Image Artists in the US, 1960s-1970s 展に飯村隆彦関連作品数本（アメリカ合衆国・フィラデルフィア、フィラデルフィア日米協会、コラボラティヴ・カタロギング・ジャパン主催、令和 6 年 6 月 14 日～8 月 9 日）、鈴木治行「映像と音楽」室内楽個展に飯村作品「Filmstrips II」の上映（杉並公会堂小ホール、主催 CIRCUIT、令和 6 年 10 月 22 日）がありました。また引き続き飯村隆彦アーカイブサイト（ビデオアートセンター東京）随時更新しオンラインでの公開に努めていき、戦後美術やメディア芸術の理解と分析に役立てたいと考えます。 https://vctokyo.wixsite.com/info/2024iimura-archive

成果 3：本年度にこだわらない事業の最終ゴール

飯村の作品を収蔵している海外の映画祭・美術館、海外アーティストとの共同制作作品などの調査を進

めるべく各海外文化機関や作品管理団体と連携をとり、それぞれのアーカイヴの間を補完し合う必要性があります。またそのような横断的なメディア芸術分野の研究者、キュレーターの育成、さらには観客へのアクセスなど文化遺産としてのメディア芸術の経済効果を見据えた将来的に持続可能なアーカイヴと文化系譜の体制を整えていきたいと考えます。

略歴　**飯村隆彦**（Takahiko IIMURA, 1937 年-2022 年）



哲学や思想的なアプローチからフィルムやヴィデオ、パフォーマンスを行い、戦後のアート史と映画史の交点ともいえる新しい表現分野を開拓した。国内のみならずアメリカ合衆国、フランス、ドイツなど国際的に活動が知られる。著書に『芸術と非芸術の間』（三一書房、1970）、『パリ東京映画日記』（風の薔薇社、 1985）、『映像実験 のために』（青土社、 1986）、『映像アートの原点 1960 年代』（水声社、2016）など。 第 19 回文化庁第 19 回文化庁メディア芸術祭（2015 年）の功労賞を受賞。没後、ベルリン国際映画祭 2023、恵比寿映像祭 2023 ほか、「飯村隆彦 Video Field」（2023 年、MORI YU GALLERY、京都）など回顧上映・展覧会でアーカイヴ事業による作品紹介が続けられている。